

高等学 校

平成 2 2 年度

# 教育研究員研究報告書

芸術（音楽）部会

東京都教育委員会

## はじめに

東京都教育委員会は、平成22年度から新たに幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員を対象に教育研究員を設置し、平成17年度まで50期にわたって行ってきた教育研究員事業を6年ぶりに復活させました。この事業は、教育研究活動の中核となる教員を養成することによって、東京都全体の教育の質を向上させることを目的としています。各教育研究員には1年間の研究活動を通して組織的な研究活動の在り方を身に付け、これからの東京都の教育研究活動の推進者となることが期待されています。

平成20年3月に告示された幼稚園・小学校・中学校学習指導要領に続き、平成21年3月に高等学校学習指導要領が告示され、全ての校種が新しい学習指導要領の本格実施あるいは本格実施に向けての移行期間に入りました。このことを受けて、平成22年度の教育研究員の共通テーマは「新学習指導要領に対応した授業の在り方について」とし、研究の柱が改訂された学習指導要領であることを明確にしました。また、今回の学習指導要領改訂の大きなポイントの一つである「言語活動の充実」については、全ての校種・部会の研究内容の中で取り組むこととしました。

これまで都教育委員会は、都立高校教育の充実・発展のために「生徒による授業評価」を活用した授業改善の促進や、進学指導重点校等での進学指導に関する協議会の開催など、生徒の学力を向上させるための取組を行ってきました。また、平成22年度からは、進学指導のマネージメントの定着を図る目的で、進学校における外部機関による進学指導診断を実施したり、学力向上に向けて実践的な研究を行う学校を指定し、高校入試結果の分析、学力向上推進プランの作成、学力調査問題の開発・実施・分析を通して学習指導の改善と充実を図ったりしてきました。

そこで、本年度高等学校の各部会においては、全校にわたる共通テーマに加え、「確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究」を高等学校全体のテーマとして設け、各部会において確かな学力を定義づけた上で、それぞれの研究主題を設定し、研究開発に取り組んできました。

この1年間、高等学校の全15部会、70名の教育研究員が、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術（音楽）、外国語、家庭、情報、農業、工業、商業、特別活動及び総合的な学習の時間の各教科等について、研究主題に基づいて研究を行い、協議を重ね、検証した内容を本報告書にまとめました。

各学校におかれましては、本報告書を有効に活用し、学力向上に向けた教科等の指導方法・内容の改善と充実に取り組んでいただくようお願いします。

平成23年3月

指導部高等学校教育指導課長

宮本 久也

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	15
VII	今後の課題	16

## 研究主題

# 生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるための授業の在り方

～音楽を形づくっている要素の理解を深めさせるための指導法の工夫を通して～

## I 研究主題設定の理由

### 1 新学習指導要領の要点

芸術科の新学習指導要領では次の3点が大きな改訂のポイントとなっている。

- (1) 芸術科の目標に「芸術文化についての理解を深めること」が新たに加わった。
- (2) 生涯学習社会の一層の進展に対応するため、芸術Ⅰ及びⅡを付した科目の目標にも「生涯にわたり」という文言が加わった。
- (3) 鑑賞活動の中に互いに批評しあう活動を取り入れることにより、言語活動の充実を図るようになった。

以上の点を踏まえ、改めて生涯学習としての音楽とは何かを考え、さらに言語活動の充実を図り、音楽文化の理解を含め、コミュニケーション能力の充実を図ることが重要と考えた。

### 2 確かな学力とは何か

芸術（音楽）科（以下音楽科とする）における「確かな学力」を考える際、新学習指導要領から、各科目の目標を明らかにすることで、次の2点に絞り込むことができた。

- (1) 音楽を形づくっている要素を正しく理解し、歌詞の内容や楽曲の背景を感じ取り、イメージをもち、表現を工夫して演奏・想像する力
- (2) 楽曲や演奏について、それぞれの特徴を理解して鑑賞する力

音楽科には大きく分けて、表現と鑑賞の分野があり、さらに表現分野には歌唱・器楽・創作の三つが細かく分類されているため、その分野ごとに目標をまとめた。音楽を形づくっている要素とは、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など（中学校学習指導要領平成20年3月告示参照）を指す。また、主題において要素の理解を深めさせる指導としたのは、理解にとどまらず、それをを用いて表現、鑑賞に生かすことが重要と考えたからである。

### 3 現状と課題

現在、携帯電話やインターネットなどのコミュニケーションツールを通して、日本国内だけでなく海外の音楽も容易に手に入れられる時代である。また、音楽再生機器も充実しており、いつでもどこでも好きなときに音楽を楽しむことができる。音楽の種類も豊富で、どのような音楽を好んで聴いているかを尋ねると、こちらがよく知らないジャンルの曲を答える生徒も少なくない。しかし、多様な音楽に触れているにもかかわらず、音楽を表現する力は、各自の音楽体験（幼少、授業外）の有無により、大きく左右されている。特に、音楽を形づくっている要素の理解が必ずしも十分とは言えず、イメージをもって演奏・表現することが不得手な者が多いということを実感する。

このような現状を踏まえ、音楽科としては音楽の要素を理解させることを通して、楽曲の歌詞や旋律を読み取り、表現活動に反映する力を向上させる指導が必要であると考えた。

## II 研究の視点

現状でも述べたように、生徒の実態は高校入学時までの知識と経験により個人差が大きい。個別の実技指導であれば各自の実態に合わせた指導も可能である。しかし、音楽科の目標は実技指導を目的に設定されているものではなく、音楽を愛好する心情を育てるための授業である。また、音楽の良さを味わうこととは、個人の実技レベルが上がることだけでなく、むしろ、表現活動としての音楽を通して、コミュニケーション能力を高め、音楽を作りあげる喜びを仲間と共有することであると考えられる。しかし、実際には個人差があるために、全体での音楽活動を進めていくと、得意な生徒と不得意な生徒に分かれてしまい、目標を達成できないことも多い。さらには、学校間の差も大きいことが現状で、授業者が勤務校によって、扱える内容を知らないうちに考えてしまう傾向がある。そこで、本研究はそのような現状を踏まえ、幅広くどのような学校でも応用して実践できる題材設定、教材研究、指導法研究を目標とした。

### 1 題材設定と教材研究

#### (1) 歌唱、器楽、創作、鑑賞の題材目標を明確にする

題材はどのような学校でも扱っている内容とし、歌唱（合唱）、リズムによる創作、広く一般に知られている楽曲の鑑賞という、普遍的なものを選んだ。

指導案を作成する際には、題材の目標を明確にし、特に評価規準は1時間の中で2～3点に絞り込み、授業内における生徒の音楽活動のどの部分を評価するのかを授業者自身が明言できるように設定した。また、評価規準の、ア 音楽への関心・意欲・態度、イ 音楽表現の創意工夫、ウ 音楽表現の技能、エ 鑑賞の能力のそれぞれの段階を踏んで、授業内容を組み立てるように留意した。

#### (2) 生徒の実態に即した教材研究

教材選びでは、生徒の興味・関心を引き出しやすいように、生徒にとって親しみのある曲を選んだ。教材研究では、楽譜だけではなく、必要なワークシートを作成したり、視聴覚教材を効果的に用いたりして、生徒自身が授業の目標を明確にできるようにした。また、ICT機材を活用することにより、ワークシートだけではなく、生徒にわかりやすい教材となるよう努めた。

### 2 指導法の工夫

#### (1) 新学習指導要領との関わり

新学習指導要領では、指導内容が活動として明確にされるとともに、A表現（歌唱・器楽・創作）とB鑑賞の関連を図るよう明示された。例えば、歌唱においては、「歌詞の意味や楽曲の背景を知識として理解することにとどまるのではなく、音楽を醸し出す雰囲気と歌詞の内容や楽曲の背景とのかかわりを感じ取ることができるようにすることが大切である」とあり、これにより、表現と鑑賞の指導と関連付けることが考えられる。今回の研究でも、表現の分野には鑑賞の活動を取り入れ、逆に鑑賞の分野には表現の分野を取り入れるようにした。

#### (2) 学習形態の工夫

個々による学習活動、グループによる学習活動の時間を設け、教員の支援を必要とする生徒への配慮を行った。また、生徒がお互いの演奏を聴いて、それぞれの演奏の感想を交換し

あい、それをさらに自分たちの演奏に生かすよう、生徒が主体的に活動する場を設けた。

### Ⅲ 研究の仮説

新学習指導要領では、すべての音楽活動を支える基盤として、「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受」することが示されている。部会の主題はその点に着目し導き出されたのであるが、研究の仮説では、どのようにすれば音楽を形づくっている要素の理解を深めることができるのか、を考慮することにした。

生徒の現状と音楽科の課題は前にも触れたが、なぜそのような現状におかれているのか、自らの授業を振り返り、問題点を明らかにすることを前提に協議したところ、題材の目標が明確でなかったり、評価規準が曖昧であったりすることなどが挙げられた。実技教科であるため、いかに生徒に活動させるか悩ませる場合も多いが、基本に立ち返った授業実践を行う必要があると考えた。そこで、今回「題材の目標を明確にし、教材や指導方法を工夫することによって、音楽を形づくっている要素の理解を深めることができる。」という仮説をたて、その具体的方策を授業研究において検証することとした。

### Ⅳ 研究の方法

#### 1 読譜の指導を通して、音楽を形づくっている要素を理解させる

高校入学時に生徒へ楽典に関する問題に取り組ませると、音名が判別できず、臨時記号や音符記号などの知識が不足しているなど、基礎的な読譜を苦手とする生徒が多くみられる。そこで、ト音記号やヘ音記号などの読譜に関する学習を繰り返すことにより、基礎的な読譜力が培われると考えた。読譜を行う中で、旋律の動き、リズムの反復や、アンサンブルにおいては各パートの関わりに着目させることができる。

#### 2 学習対象とする要素を明確にしたワークシートを活用し、その理解を深めさせる

授業者がその学習活動の中で、どの要素を理解させたいのかを明確にしたワークシートを用いることで、生徒の目標も明確になる。今回の研究では、合唱の活動を通して、和音の働きにポイントを絞り、それを表現に生かす工夫を行った。

#### 3 絵、図及び言語等を用いてイメージを膨らませ、思いや意図をもって表現させる

楽譜にとらわれることなく、生徒の表現したい内容を絵や図、言語で表せるよう工夫した。今回の研究では、リズム・アンサンブルを創作していく過程で、リズムを音符で表すのではなく、目盛りを使った楽譜（グラフシート）に則したワークシートを活用した。

#### 4 楽曲の持ち味を感じ取り、その特質や雰囲気に着目して批評させる

楽曲の持ち味を感じ取るために必要である音楽を形づくっている要素を絞り込み、より生徒が理解しやすい工夫を施した。そして音楽の特質や雰囲気を批評させる活動を通して、楽曲に対して自分なりの価値観をもち、根拠をもって表現させる活動を行った。

## V 研究の内容

### 1 研究構想

全体テーマ **新学習指導要領に対応した授業の在り方について**

高校部会テーマ **確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究**

#### 教科等の新学習指導要領のポイント

- ・芸術科（音楽）の目標に「芸術文化の理解を深め」が追加され、I・IIを付した芸術の各科目の目標にも「生涯にわたり」芸術を愛好する心情を育てることが追加された。
- ・言語活動の充実を図り、楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動が取り入れられた。
- ・伝統文化や郷土の文化が重視されるようになった。
- ・指導内容が活動として明確に示され、それぞれの事項に関連付けられるようになった。
- ・知的財産権を尊重することが言及された。

#### 教科等における確かな学力とは

- ・音楽を形づくっている要素を正しく理解し、歌詞の内容や楽曲の背景を感じ取り、イメージをもち、表現を工夫して演奏・創造する力
- ・楽曲や演奏について、それぞれの特徴を理解して鑑賞する力

#### 現状と課題

<現状> 音楽を形づくっている要素の理解が必ずしも十分とは言えない。

イメージをもって演奏・表現することが難しい。

<課題> 音楽の諸要素を理解し、楽曲の歌詞や旋律を読み取り、表現活動に反映する力を向上させる指導が必要である。

#### (高・芸術(音楽))部会主題

生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるための授業の在り方  
～音楽を形づくっている要素の理解を深めさせるための指導法の工夫を通して～

#### 仮説

題材の目標を明確にし、教材や指導方法を工夫することによって、音楽を形づくっている要素の理解を深めることができる。

#### 具体的方策

- ・読譜の指導を通して、音楽を形づくっている要素を理解させる。
- ・学習対象とする要素を明確にしたワークシートを活用し、その理解を深めさせる。
- ・絵、図及び言語等を用いてイメージを膨らませ、思いや意図をもって表現させる。
- ・楽曲の持ち味を感じ取り、その特質や雰囲気に着目して批評させる。

## 2 実践事例

### (1) 実践事例 I

科目名	音楽 I	学年	1 学年
-----	------	----	------

#### 1 題材名 「音楽を形づくっている要素を理解し、混声四部合唱に取り組もう」

使用教材 教科書 「高校の音楽 1」 音楽之友社

副教材 「MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽」 啓隆社

合唱楽譜 「カッチーニのアヴェ・マリア」 混声四部合唱用

ケイ・エム・ピー出版

#### 2 題材の指導目標

- ・読譜の指導を通して、音楽を形づくっている要素を理解する。
- ・各パートの動きをお互いに理解し、バランスよく響きあっていることを意識しながら合唱する。

#### 3 題材の評価規準

	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の 創意工夫	ウ 音楽表現の 技能	エ 鑑賞の能力
歌唱	○	○	○	
器楽				
創作				
鑑賞				○
題材の 評価規準	楽曲の旋律や和音に関心を持ち、意欲的に表現しようとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、曲想を生かした表現を工夫している。	楽曲から感じ取ったイメージを創造的に表現する技能を身に付けている。	それぞれの作曲家の時代背景を理解し、特徴を理解することができる。
学習活動に即した 具体的評価規準	①主体的に活動している。	①和音とコード進行を理解しながら表現を工夫している。 ②他のパートを聴いてバランスを意識しながら表現を工夫している。	①楽曲のイメージを大切にしながら、一体感のある音色や全体的な調和のとれた表現をする技能を身に付けている。	①時代による音楽様式の違いを理解することができる。

#### 4 題材の指導計画と評価計画（6時間扱い）

時	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
1	・和音の基礎について学習する。 ・パート別、全パートあわせてのクレ読みと、パート別の音取りをする。	○和音、コード進行を理解する。 ○各パートの旋律を理解する。 (9小節目～24小節目まで)	イー① ワークシート① イー① 観察
2 (本時)	・「アヴェ・マリア」の楽譜を読み取り、和音、コード進行を分析する。 ・2パートに分かれて合唱する。 ・全体で合唱する。	○和音、コード進行を分析する。 ○各パートの旋律を理解する。 (9小節目～24小節目まで)	イー① ワークシート② イー① 観察
3	・前時までの分析を応用し、和音の構成音に留意しながら、パート別の音取りをする。	○各パートの旋律を理解する。 (25小節目～最終小節まで)	イー② 観察
4	・旋律を理解し、曲の構成を確認する。 ・曲全体を通して雰囲気を感じ取り、根拠をもって批評する。	○カッチーニのアヴェ・マリアを鑑賞する。	エー① ワークシート③
5	・各パート、2パートで、音取りの最終確認をする。	○各パートの旋律を理解する。	ウー① 観察
6	・全体で合唱する。 ・歌い終えて、感想を書く。	○まとめ	ウー① 観察・ ワークシート④

#### 5 本時(全6時間中の2時間目)

##### (1) 本時の目標

ア 和音とコード進行を理解し、表現を工夫する。

イ 和音を意識して表現を工夫する。

##### (2) 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	5分	・本時の内容の確認をする。 ・前時の復習をする。	・ポイントを明確にする。	
展開①	15分	・ワークシートを使った楽曲分析をする。	・個人やパートごとにきめ細かく指導する。	イー① ワークシート
展開②	10分	・外声と内声に分かれて練習する。	・多声部を意識して歌うよう助言する。	イー① 観察

展開③	10分	・全体で合唱する。	・和音を意識しながら表現できるように指導、助言する。	イー① 観察
まとめ	10分	・本時の感想を発表する。	・和音とコード進行を理解した上で、どのような表現の工夫をしたのか、発表させる。 ・次回の活動につながるよう助言する。	

### (3) 本時の評価

和音とコード進行を理解し、表現を工夫することができたか。

## 6 本時の振り返り

(1) 各パートの旋律が和音の第何音になるのかを理解させるためのワークシートを準備した。また、和音記号と和音機能記号はあらかじめ付しておき、トニック、ドミナント、サブドミナントの働きを意識できるようにした。前時に和音の基本形を扱ったが、実際の曲では和音が必ずしも基本形で現れることがないため、生徒は戸惑っていた。やり方がわかると、半分くらいの生徒は理解してワークシートを進めていくことができた。

(2) 外声と内声に分かれ、まずは自分以外のパートの存在を意識させた。ソプラノとバスによる外声の組み合わせは比較的ハーモニーが作れていたが、アルトとテノールパートの内声の組み合わせでは、自分の音取りに精一杯で、まだ他のパートを聞くところまで進めることができなかった。

(3) 本時では、和音の根音は力強く、第3音は最も控えめに、第5音をはじめとするその他の音は根音よりは控え、第3音よりは強く、というルールで合唱を試みた。それによって、タイで結ばれた同じ音が、和音の変化に伴い、強弱が変化することを理解させた。  
(次ページ ワークシート①抜粋参照)

ワークシートのハーモニー練習以外にも実際の曲を使って、和音の第何音かを記入する作業を行った。特に、「アヴェ・マリア」ではV7→Iへ解決する場所を見つけ、ドミナントからトニックへの流れを意識させるよう指導した。

(4) 今後の課題としては、和音の機能について説明が不十分なため、T-S-D-Tの一連の流れに沿って、コード進行を理解したうえで、曲想を工夫させられるよう、指導を進めていきたい。また、全ての生徒が和音の構成、機能を理解するにはまだ研究の余地が多く、ワークシートにも工夫を加えたい。

参考資料

<ワークシート①抜粋>



手順1 パートの各音に和音の第何音かを記入する。

手順2 音の強さのバランスルールに従って各パートは声を出し、バランスを確認する。

手順3 トニック、サブドミナント、ドミナントの働きに注意して曲想を付ける。

(2) 実践事例Ⅱ

科目名	音楽Ⅱ	学年	2 学年
-----	-----	----	------

1 題材名 「創作器楽 ボディ・パーカッションを創作しよう」

使用教材 教科書 「高校生の音楽2 改訂新版」 音楽之友社

「Don't Mind」 (教科書 68 ページ)

2 題材の指導目標

- ・音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解する。
- ・自分のイメージを、音楽を形づくっている要素を用いて創作し、表現する。

3 評価規準

	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
歌唱			
器楽			○
創作	○	○	○
鑑賞			
評価規準 題材の	曲づくりに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	音楽を形づくっている要素を理解する。	イメージをはっきりと持ち、演奏に生かす。
学習活動に即した 具体的評価規準	①自分なりの考えをもち、音楽を表現しようとしている。 ②仲間と協力してアンサンブルを作り出そうとしている。	①音色・リズム・速度・強弱・構成について理解する。 ②イメージに近づくよう要素を取り入れている。	①音楽を形づくっている要素を用い、思いや意図をもって創作・演奏する。

#### 4 題材の指導計画（4時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Don't Mind」の学習をする。</li> <li>・「カレーまでの道のり」(ヴォイス・アンサンブル)及び「Rock Trap」(ボディ・パーカッション)を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボディ・パーカッション及び創作について学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア－② 観察</li> <li>イ－① 観察</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音色・リズム・速度・強弱・構成の具体例を学ぶ。</li> <li>【和楽器・太鼓、歌舞伎・下座音楽、ガムラン、フラメンコ・パルマ など】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽を形づくっている要素を理解し、その働きを知る。</li> <li>○グループに分かれ、テーマを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イ－① 観察</li> <li>ア－① ワークシート</li> </ul>
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージに近づくよう工夫し、創作、演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループごとにテーマを設定し、16小節程度の曲づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア－② 観察</li> <li>イ－② ワークシート</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールに基づき、曲を完成させる。</li> <li>・各グループの発表を聴き、感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウ－① 観察・ ワークシート・ 鑑賞記録プリント</li> </ul>

#### 5 本時（全4時間中の3時間目）

##### (1) 本時の目標

イメージを意識したアンサンブルづくりに取り組む。

##### (2) 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容の確認をする。</li> <li>・前時までの復習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を明確に伝える。</li> </ul>	
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲名等テーマを話し合う。</li> <li>・テーマに沿って役割分担を決める。</li> <li>・創作したリズムをシートに記入する。</li> <li>・グループ練習する。</li> <li>・できた部分をグループ発表する。</li> <li>・再びグループ練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲づくりのルールを示す。</li> <li>・使用するシート(パートか総譜)は、グループで選択させる。</li> <li>・テーマに沿っているか、要素を効果的に取り入れているか助言する。</li> <li>・自信がもてるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア－② 観察</li> <li>イ－② ワークシート①</li> </ul>
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理したリズムを、全パート用シートに記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入の仕方を確認して回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウ－① ワークシート②</li> </ul>

### (3) 本時の評価

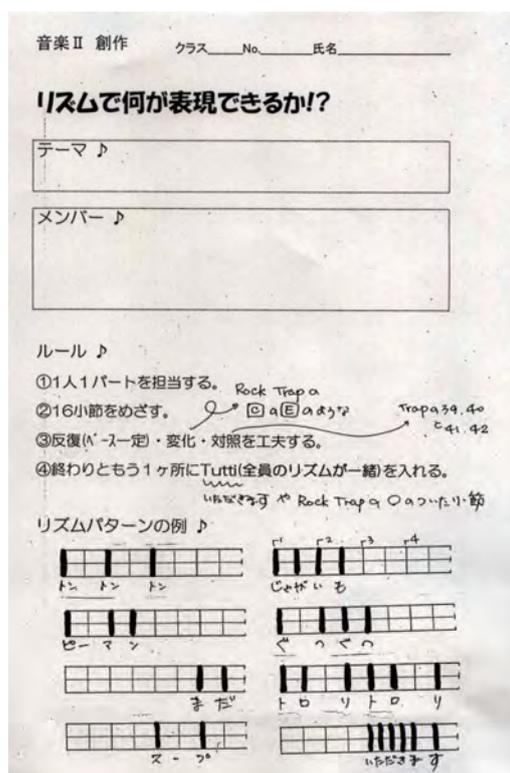
- ア イメージをはっきりともち、要素を効果的に取り入れたアンサンブルづくりに取り組んだか。
- イ 主体的にアンサンブルに取り組んだか。

## 6 本時の振り返り

- (1) リズムで表現するにあたり、音符に執着せずタイミングを示すグラフシートを用いた。この単純化により生徒は、音符を扱う抵抗感が少なくなり、個人用（パート）及び全体用（スコア）のシートを活用して創作することができた。
- (2) 創作の活動の過程で、「ルール」という形である程度の制約を設けたが、イメージを具現するための一つの手立てのため、強いしぼりとはしなかった。動機付けにつながるよう柔軟性をもって対応していきたい部分である。
- (3) 「各自の描いたイメージを創作し、表現する」目標であったが、取り組んでいく中で、音色や強弱など音楽を形づくっている要素に惑わされる事態に陥るグループが見受けられた。この点については、日々の教育活動において、「イメージをもつ、描く」ことの大切さを痛感した。
- (4) 今回の創作はグループ活動という形態で行った。テーマがまとまらない、音楽を形づくっている要素をどう生かすか悩むなどの苦労もあったが、アイデアが次々と湧く、意見がまとまっていくなど、作りあげる楽しみが随所にみられ、回数を重ねると「洗練された作品が出来るのではないか」という見通しがもてた。

### 参考資料

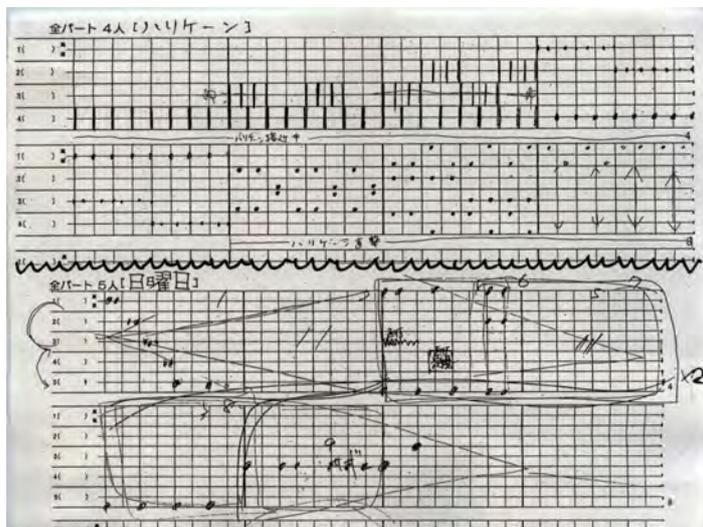
#### <ワークシート①>



#### ① 使用したワークシート

タイミングを示すグラフシートを用いることにより、音の長さにとらわれず創作することができた。

<ワークシート②>



② 生徒の作品より

「構成や強弱に着目した例」

上記は、ハリケーンの発生から消滅までの過程を創作した作品である。下記は、日曜日の心理描写を表現した作品である。どちらも、生徒がイメージしたリズムや強弱をグラフシート上へ自由に表現することができた。

(3) 実践事例Ⅲ

科目名	音楽Ⅱ	学年	2学年
-----	-----	----	-----

1 題材名 「旋律や音色の重なりを理解して鑑賞しよう」

使用教材 教科書 「MOUSA 2」 教育芸術社

DVD 「交響曲第9番ニ短調『合唱付き』」

(ニホンモニター株式会社 DLVC-8105)

楽譜(総譜) BEETHOVEN SYMPHONIE Nr.9 MINIATURE SCOERS 音楽之友社

2 題材の指導目標

- ・ 楽曲の曲想や楽器の特性に関心をもち、主体的に鑑賞の学習に取り組み、その喜びを深める。
- ・ 音楽を形づくっている要素を理解し、楽曲の旋律や音色の特徴を聴き取る。
- ・ 旋律や音色の重なりに着目して批評する活動を通して、楽曲の持ち味や音色の組合せによる響きの関わりを理解する。

### 3 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
歌唱		
器楽		
創作		
鑑賞	○	○
題材の 評価規準	・声や楽器の特性と表現上の効果や、楽曲の曲想に関心をもち、主体的に鑑賞の学習に取り組み、その喜びを理解しようとする。	・声や楽器の特性と表現上の効果や、楽曲の曲想を理解して、楽曲を聴き取り、そのよさや美しさを理解している。
学習内容に即した 具体的な評価規準	①楽曲の旋律や楽器の音色に関心をもち、主体的に理解しようとしている。	①楽曲を構成している要素（音色・旋律・テクスチャ）を理解し、様々な楽器における音色の特徴を聴き取ることができる。 ②旋律の重なりと異なる楽器の音色の組み合わせを理解して鑑賞することができる。 ③旋律や音色の変化を理解し、音楽によって喚起されたイメージを、根拠をもって批評できる。

### 4 題材の指導計画（3時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
1	・旋律や楽器の音色を理解して聴く。 ・1～4楽章のテーマを理解する。	○旋律が演奏されている部分を鑑賞する。 ○楽曲の構成を理解する。	アー① 観察 エー①② ワークシート
2 (本時)	・旋律の重なりと楽器の音色の組み合わせを理解する。 ・旋律の重なりを聴き、喚起されたイメージを、根拠をもって批評する。	○旋律が演奏されている部分を鑑賞する。 ○旋律の重なりを聴き、楽曲の組合せによる響きについて批評する。	アー① 観察 エー②③ ワークシート
3	・旋律や音色の変化を理解する。 ・旋律の変化を聴き、喚起されたイメージを、根拠をもって批評する。	○旋律が演奏されている部分を鑑賞する。 ○旋律の変化を聴き、楽曲の編成について批評する。	アー① 観察 エー②③ ワークシート

## 5 本時（全3時間中の2時間目）

### (1) 本時の目標

- ア 旋律が演奏されているパートやその音色の重なりを理解して鑑賞する。
- イ 音楽を形づくっている要素を理解し、批評する。

### (2) 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容の確認をする。</li> <li>・前時までの復習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントを明確にする。</li> </ul>	
展開	40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律が演奏されている部分を鑑賞する。</li> <li>・旋律の重なりと楽器の音色の組み合わせを理解する。</li> <li>・旋律の重なりを聴き、楽曲の組合せによる響きについて批評する。</li> <li>・音楽を形づくっている要素を理解し、批評する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲でどの部分が旋律を演奏しているかを理解させる。</li> <li>・電子情報ボードを活用し、旋律の重なりとその楽器の音色について指導する。</li> <li>・楽器の音色とその重なりについて、音楽を形づくっている要素を理解して批評するよう指導する。</li> </ul>	アー① 観察  エー② ワークシート  エー③ ワークシート
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいをまとめ、次の授業について説明する。</li> </ul>	

### (3) 本時の評価

- ア 旋律が演奏されているパートやその音色の重なりを理解して鑑賞できたか。
- イ 音楽を形づくっている要素を理解し、批評できたか。

## 6 本時の振り返り

- (1) ICT機器を活用し、プレゼンテーションソフトやMIDI編集ソフトを用いて資料提示したことは視覚的にわかりやすく、効果的であった。また旋律「歓喜のメロディ」を提示した後に、楽曲全体を鑑賞させたことも、旋律を生徒に意識させて鑑賞させる取組につながった。
- (2) 今回提示した旋律を楽譜の中から探す課題では、生徒は「旋律」に着目するのか「リズム」に着目するのか、取組に迷いが生じてしまった。課題提示においては、授業のねらいに即した明確な指示をする必要がある。また、授業後の研究協議では、旋律の長さをさらに限定し、生徒が旋律に着目するための提示方法を明確にしたほうが良いという意見があった。今後の指導に生かしていきたい。
- (3) 今回の題材の目標は、楽器の音色について深く理解させ、旋律の重なりを意識させる

とともに、音の重なりを理解させることである。事前に楽曲に使用されている楽器についての理解を深めさせる指導がさらに必要である。

- (4) 今回の授業構成は、①楽曲で使用されている楽器を理解する、②「歓喜のメロディ」を理解する、③楽譜の中から「歓喜のメロディ」を探し記述する、④楽器の重なりを意識して鑑賞して感想を記述する、と時間配分に対して取組が多かった。生徒の実態に合わせ、活動内容を精査した題材の指導を計画する必要がある。
- (5) 授業実践後に、指導計画3時間目において楽曲についての批評文を記述させた。旋律や音色の変化について理解させた後に第4楽章全曲を鑑賞させることで、楽曲の中で生徒が着目した点を明確にし、また着目した理由に対して根拠をもって批評できたことは、鑑賞におけるねらいが達成できたと考えられる。

### 参考資料

<使用したプレゼンテーションソフト>

画面をクリックすると、音声や映像が流れるよう、視覚的に訴える教材を作成した。

<p>Beethoven作曲交響曲第九番 (合唱付き)</p> <p>■ [ ] を探せ! 📢</p> 	<p>Beethoven作曲交響曲第九番 (合唱付き)</p> <p>■ 歓喜のメロディ を探せ!</p>  <p>② 配布した楽譜の中から「歓喜のメロディ」を探し、円(O)で囲みましょう。</p>
---	---

<電子情報ボードを活用した授業風景>

生徒に配布した楽譜と同じ画面を投影し、電子ペンで書き込みながら授業を行った。



<生徒が記述した批評文>

批評文①

今ね全くかぶったことのない言葉の歌で最初はとまどったし、歌詞を覚えるのにも時間がかかったけど歌の意味を勉強したら結構歌いやすくなった気がした

1時間目に記述した批評文。楽曲についての批評という設問であったが、生徒が歌唱時に苦勞したこと等、歌唱（歌詞の発音）についての感想文になっている。

批評文②

今まで歌詞があつた所より一言一言がハッキリしてると思ふ。あと音のリズムがこの小説通して一定で聴きやすいと思ふ。

3時間目に記述した批評文。批評文①と同一生徒であるが、楽曲におけるリズムに着目して鑑賞していることがわかる。

批評文③

曲全体を支えるニギ的か然して、静かに演奏されてるんだけどとても力強いと思ふ。とこでこころに入る強弱の部分がその力強さを一層引き出している。

最初は倍音の楽器とフルートの演奏が目立っていた。自分の聴いたことのあるXロフに入ると五分くらしかかったのがちよとびっくりしてそこらへんからフルートの音も入りはじめて、響きのXロフが聞こえてきた。全体を通して強弱がマメに最後は静かに聴いた。自分の……と思ふのは大分不思議な理由は、リズムが早くなって高い音と低い音のバランスで全体のまとまりがよくなったと思ふを感ずる。

主題（92 小節目～低音楽器）と楽曲全体の批評文。音色や旋律の変化、強弱、バランス等に注目し、根拠をもって批評している。

## VI 研究の成果

本研究では、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てることを目標とし、具体的な指導方法を開発するとともに、検証授業を行った。開発に当たっては、題材設定、教材研究、指導方法を工夫し、幅広くどのような学校でも応用して実践できるようにした。

歌唱では、音楽の諸要素をリズム・旋律・強弱・構成に絞り、和音に着目させやすいような平易なリズムやコード進行の教材を選定した。また、和音やその機能を理解し、楽曲分析をするためのワークシートを作成した。さらに、他パートの存在を意識させるために、外声と内声の2パートに分けて歌唱指導をした。このことによって、生徒は和音進行に着目し、和音の変化に伴って強弱を変化させるなど、楽曲にふさわしい表現を工夫して歌うことができた。

創作では、リズム・音色・強弱・構成に着目し、生徒が興味・関心をもちやすいボディ・パーカッションを教材として選定した。リズムや強弱を自由に表現できるよう、五線譜の代わり

にグラフシートを用いた。これらの工夫によって、生徒は音符だけにとらわれず、音の構成を視覚的に理解し、イメージをもって表現活動ができた。また、グループ活動を通して、仲間と共に主体的に楽曲を作りあげる喜びを感じ取ることができた。

鑑賞では、音色・旋律・テクスチャに着目し、生徒にとって親しみがあり、旋律を聴き取りやすい楽曲を教材として選定した。楽器の音色について深く理解させ、旋律の重なりを意識させるとともに、音の重なりを理解させるため、視覚に訴えるプレゼンテーションソフトやMIDI編集ソフト等のICT機器を活用した。これらの指導によって、当初は漠然とした感想しか記述できなかった生徒が、楽曲の旋律や音色の特徴を聴き取り、楽曲を構造的に理解して音楽のよさや美しさなどの味わいを深めることができた。

このように、ねらいを明確にした指導を通して、音楽を形づくっている要素の理解を深めさせることにより、生徒は主体的に音楽活動に取り組み、思いや意図をもって表現したり、味わって鑑賞したりする力を身に付けることができた。

## **VII 今後の課題**

### 1 表現と鑑賞の関連

本研究の実践事例Ⅰでは、表現と鑑賞の関連付けを行った。表現の領域に鑑賞を取り入れることにより、楽曲についてより深く理解し、歌唱表現に生かす工夫をした。新学習指導要領でも、領域の関連付けについて何度も触れられており、今後も研究を続けていく必要がある。

### 2 言語活動の充実

鑑賞の指導では、根拠をもって批評する活動を通して、音楽の良さや美しさなどの味わいを深めることが求められている。しかし、授業において鑑賞に充てられる時数は必ずしも十分とはいえない。実践事例Ⅲでは、主題の旋律に着目した鑑賞の授業を行った。今後は鑑賞の授業を充実させることにより、言語活動の充実を図り、生徒が自分自身の言葉で表現する力を身に付けさせる必要がある。

### 3 各学校段階の内容の連続性

新学習指導要領では、各学校段階の内容の連続性に配慮することに触れている。今回の教育研究員の宿泊研究会において、中学校音楽部会との交流を通して、その重要性を認識した。今後は、中学校の研究授業等に参加し、指導方法などの研修を深める必要がある。

### **【参考資料】**

- ・高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示
- ・高等学校学習指導要領解説 芸術編 平成21年12月
- ・小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）平成22年5月11日

## 平成22年度 教育研究員名簿

### 高等学校・芸術（音楽）

学 校 名	課程	職名	氏名
都立足立新田高等学校	全日制	主幹教諭	◎堀口 俊英
都立清瀬高等学校	全日制	主任教諭	渡邊 三基子
都立戸山高等学校	全日制	教 諭	米原 希和

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 統括指導主事 鵜飼 敦之  
東京都教育庁教職員研修センター研修部  
教育開発課 指導主事 片桐 あかね

平成 22 年度  
教育研究員研究報告書  
高等学校 芸術(音楽)部会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 有限会社 シーダー企画  
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10  
電話番号 (03) 5228-3451